

CCJ EVENT REPORT

第19回「CCJケースメソッド研究会」(2016年12月9日開催)

日本ケースセンターは、ケースメソッド授業の運営能力の向上を図るディスカッションリードの演習の場として、参加者同士で研鑽する「CCJケースメソッド研究会」を開催しています。第19回の研究会では、いつものディスカッションリーダーが模擬授業を展開する形式ではなく、講義＋パネルセッション形式で、ケースメソッドの導入における疑問・質問にパネリストの経験を交えて学べる企画としました。



講師を務めていただいた竹内伸一教授からは、冒頭でケース・メソッドの歴史を遡って、フンボルト(独)やデューイ(米)が残した教育理論の視点から、また、経営学の視点では、高木晴夫慶應義塾大学名誉教授が示した「経営能力のタテ軸とヨコ軸」の考え方等を引用して、ケースメソッド教育の本質や用法、基本原則からケースメソッド教育の効果と、より効果的な討議の実現条件などについて、わかりやすい解説がありました。

経営学の視点では、高木晴夫慶應義塾大学名誉教授が示した「経営能力のタテ軸とヨコ軸」の考え方等を引用して、ケースメソッド教育の本質や用法、基本原則からケースメソッド教育の効果と、より効果的な討議の実現条件などについて、わかりやすい解説がありました。

パネリストとしてご参加いただいた青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科の黒岩健一郎教授と、国士舘大学経営学部の水野由香里准教授からは、「私の履歴書」と題して、それぞれのこれまでの授業で如何にケースメソッドを取り入れてこられたか、その変遷や経験についてご紹介いただきました。3氏のそれぞれのケースメソッド教育の特徴を、その実践規模(X)、実践密度(Y)、教育効果水準(Z)という3軸で位置づけを見たときに、各々異なる領域でケースメソッドの実践に取り組んでこられたことをご紹介し、ケースメソッド教育の導入においても多様な工夫が可能であることを紹介しました。



後半のパネルセッションでは、1) 基本的な教授法スキルについて 2) どんなケース教材を使うのか 3) ケースメソッドで教える機会を如何に得られるか 4) ケースメソッド教育が質的に上向く環境とは? といった観点で3氏の考え方をご紹介いただいた後、参加者と活発な質疑応答がありました。